1月22日

殉教者執事ビンセント

Vincent of Saragossa

（？～304）

～スペイン最大の聖人～

＜人名事典などでの別表記：ヴィンセンティウス＞

ビンセントはスペイン語で「勝利者」という意味ですが、彼はスペイン最大の聖人と言われ、ローマ帝国で起こった最後の迫害の時期に殉教した人物です。303年から始まったこの迫害は、特にスペイン地方では激しいものでした。

ビンセントは3世紀末にスペインのサラゴッサで貴族院の議員の家庭に生まれます。彼は若い時から雄弁であったそうですが、それ以外のことはほとんど伝わっていません。

さて、ローマ帝国の迫害の中で、ダキアヌスという総督は18人のキリスト教信者を過酷な拷問によって殺害しました。この殺害がおこなわれたサラゴッサの司教はヴァレリウスでしたが、総督は司教および執事ビンセントに対して、信仰を捨てさせようと力を入れていきます。ヴァレリウスは言葉が不自由でしたので、拘置所で行われた尋問はビンセントが代わって答弁をしました。その中でビンセントは、棄教を迫る総督に対して「わたしはあなたたちの神々を信じません。存在するのは御父とキリストです。たった一つの神です。わたしたちはその僕であり、その証人です」と答えたそうです。

その答えに怒った総督は、司教を流罪にし、ビンセントをさらに

「16th century painting of Vincent by an anonymous」

攻撃します。網にのせて焼いたり、手足を縛って体を引き伸ばしたり、鉄の熊手で彼の体を掻き裂いたり、塩を傷口に塗ったりと、あらゆる拷問にかけつつ、一方で甘い言葉をかけて棄教を勧めますが、いずれも失敗に終わります。

そして裸足に足枷をはめた状態でガラスの破片や砂利が敷かれた牢に投げ込まれたとき、ビンセントはついに殉教します。その時の様子は殉教録に「ビンセントの留置された牢獄内に美しい光が輝きわたると同時に天使が現れ、ビンセントを慰めながら『勝利の栄冠』を約束した」と記されました。またその様子を見た守衛たちは恐れおののき、回心してキリスト者になったと言われます。

このビンセントの殉教の話はアウグスティヌスの言葉の中でも触れられ、その当時からとても有名だったそうです。

＜特祷＞

全能の神よ、あなたはみ力と恵みによって、聖なる殉教者執事ビンセントに苦難に勝ち、死に至るまで忠実である生涯を与えられました。どうか恵みをもってわたしたちを強め、どのような迫害にも耐え、主イエス・キリストのみ名を忠実に証することができますように、主は父と聖霊とともに一体であって世々に生き支配しておられます。　　アーメン